

登録コード	MA008000	開講年度	2026				
授業科目名	周麻酔期看護学概論					担当教員	田中 聡
英文授業名	Introduction to Perianesthesia Nursing					副担当	石田 高志・伊藤 真理子・石田 公美子・田中 竜介・丸山 友紀
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	不定期	対象専攻／学年	
講義室				授業形態	講義	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素						
	MS 2 6カリ(医科学)・医科, MS 2 5カリ(医科学)・医科, MS 2 4カリ(医科学)・医科, MS 2 3カリ(医科学)・医科						
	【研究科共通】医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。					科学的根拠に基づく看護ケアを実践するために、麻酔に伴う生体反応に対する麻酔管理について必要な基礎知識を習得する。	
	MS 2 6カリ(医科学)・医科, MS 2 5カリ(医科学)・医科						
	【医科学】基礎医学および臨床医学に対する基本的知識、技能および技術を修得し、自主的に検討することができる。					周麻酔期に生じる生体反応と、それに対する包括的な全身管理について説明できる。	
(2)授業の概要	周麻酔期看護を取り巻く現状について理解する。 また、科学的根拠に基づく看護ケアを実践するために、麻酔に伴う生体反応に対する麻酔管理について必要な基礎知識を習得する。 担当教員の麻酔・周術期医療の実務経験を活かした授業を行う。						
(3)達成目標（一般学習目標GIO）	・高度実践看護師養成に関する日本および海外の(米国)の基本知識について理解できる。 ・周麻酔期の感染管理，医療安全管理に必要な知識について説明できる。 ・全身麻酔，局所麻酔に伴う生体反応と術前・術後の全身管理について説明できる。						
(4)達成目標（個別行動目標SBOs）	・高度実践看護師養成に関する日本および海外の(米国)の基本知識を学ぶ。 ・周麻酔期の感染管理，医療安全管理に必要な知識を学ぶ。 ・周麻酔期の患者のリスクと対応について学ぶ。						
(5)授業計画	1～3：周麻酔看護学総論：成人看護学特論，成人看護方法特論の急性期看護学概論，危機理論等 4回以降は以下の処置等に伴うリスクやその対応を学ぶ。内容は変更することがある。 4．全身麻酔 5．区域麻酔 6．麻酔を受ける患者の術前評価と看護（1） 7．麻酔を受ける患者の術前評価と看護（2） - 基礎疾患を有する患者 - 8．麻酔計画と麻酔準備，手術室管理 9．血管確保と気道確保 10．麻酔とモニタリング 11．麻酔期における生体反応と看護（呼吸・循環・急性腎障害） 12．麻酔期における生体反応と看護（中枢神経系・急性疼痛管理） 13．手術体位と合併症 14．麻酔の維持管理（麻酔薬，輸液，輸血） 15．麻酔覚醒時の管理 16．医療安全 担当は担当責任者が行う。場合により麻酔科担当教員が入ることがある。						
(6)授業の進め方	プレゼンテーションの内容，レポート，参加度を総合評価し，60%以上を合格とする。						
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	別途提示する。						
(8)成績評価の方法	講義を中心とするが，1～3回は課題を学生が調べ，プレゼンテーションを課す。						
(9)成績評価の基準	レポート50%、プレゼンテーション50%とする。 レポートについては，まとめ方の内容から 問題の設定が適切であり， その問題の背景を説明できており， 問題にどのような課題があるのかを指摘できており， 課題に対し既存の学説が提示する解決法を把握しており， その上で自分の見解を提示できていることが望ましい。 から を満たしており，教員を感心させる内容であれば90%、 ～ を満たしている場合80%、4項目を満たしている場合は70%、3項目を満たしていれば60%と判断する。プレゼンテーションの評価も同様である。						
(10)学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問、相談については適宜対応する。メールも可能。 麻酔科代表：masui@shinshu-u.ac.jp ・周麻酔期看護学生対象科目。 * 内容が変更になることがある。						
【テキスト，教材，参考書】	参考書 ・日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会編：周術期管理チームテキスト第4版、公益社団法人日本麻酔科学会 最新版 ほか別途，提示する。						